

1996年3月13日第3種郵便物認可 1996年9月9日発行(第2・4月曜日発行)

News Source of Educational Audiology

会員の誌代は会費に含まれています

聴能情報誌

## みみだより

第307号

第3巻

通巻392号

編集・発行人：みみだより会、立入 哉 〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2150-1-1-203 電話：0298-41-7069 FAX：0298-41-5682

新刊図書

## 二人の難聴児を育てて トライアングル文庫4

トライアングル文庫、第4巻目の本として、「二人の難聴児を育てて=わが子に学んだ日々」が出版された。原田恵子・広瀬千恵子著。1600円。以下、出版元のトライアングルの紹介記事から。

東京と関西に住む二人の母親が、それぞれ二人の高度難聴児を育て上げた20年の体験からしみ出た親の心と子育てにおける様々な知恵を記した貴重な体験記です。

この本は、惜しみなく注ぐ太陽の光のような母親の愛こそ、子育ての原点であることをしみじみ感じさせてくれると共に、至難といわれる難聴児教育における大切なポイントを教えてくれます。またこの本は、太陽の恵みを浴びたひまわりのように、素晴らしい成長をとげた広瀬芽里さん、広瀬有紀さん、原田豊人さん、原田英里子さんの四人の高度難聴児の成長の記録といえます。

第I部 今、幸せな日を迎えて(原田恵子)、第1章：豊人との歩み、第2章：英里子との歩み、第3章：家族の障害受容、おわりに：先生と友人から

第II部 ありがとう(広瀬千恵子)、第1章：二人の娘と共に、第2章：長女、芽里との歩み、第3章：次女、有紀との歩み、第4章：家族の障害受容、おわりに：先生と友人から

本を頂戴し、読み始めたのが夜の11時、夜明け頃にすべてを読み終えた。兄弟姉妹が難聴であった=二人の難聴児それぞれへのお母さんの思いが伝わってくる本であった。もっと、こうした親の思いを現場の先生や研究に携わる先生に読んでいただきたい。

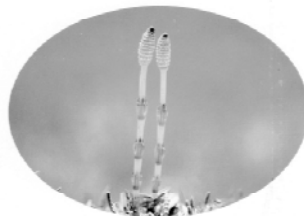
本屋での入手はできません。御注文は下記のトライアングルまで。

〒162 新宿区西早稲田2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル5F TEL&FAX:03-3203-9938

## 二人の難聴児を育てて

—わが子に学んだ日々—

原田恵子・広瀬千恵子



THE TRIANGLE  
—聴覚障害と共に歩む会—

## 新製品情報

# 新しいプログラマブル補聴器

SIEMENSは、「ロータスS3+」と「PRO」の販売を始める。

### 「ロータスS3+」

入力が大きくなるにつれて、コンプレッション比が自動的に大きくなるカーブリアコンプレッション方式。2つの周波数特性をメモリ可能な他、Tポジションの周波数特性もプログラム可能で、MTミキシングの状態もプログラム可能になっている。7つの調整パラメータを持つ。NH、NL、G、PC、AGC、SC（マイクの周波数特性をシミュレート）、T・MTのプログラム。定価：155000円。

FOG60：71dB（ピーク79dB）（最大音響利得）

SSPL90：135dB（ピーク145dB以下）（90dB最大出力音圧）

重度の難聴児者でも使えるこのパワーで、この価格は魅力的。なお、調整にはPMC（Ver6.11以上）か、CONNEX（Ver. 1.2以上）が必要。

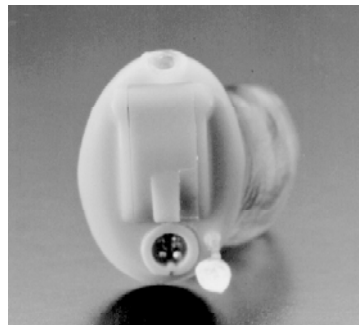
### 「PROシリーズ」

ノンリニア増幅をプログラムできるオーダーメイド耳あな形補聴器。ラウドネス感覚に合わせた設定ができるFDR（Full Dynamic Range Compression）ノンリニア増幅が可能なほか、AGC回路にありがちな不自然なアタックとリリースタイムによる音のふわつきを、これらの時間を衝撃音に合わせてコントロールできるデュアルコンプレッション回路を搭載することで、抑えることに成功している。2つの周波数特性をメモリ可能で、押ボタンでプログラムを変更することができる。調整装置はCR（コンプレッション比）、CK（ニーポイント）、G、NH、NL。なお、調整にはPMC（Ver6.11以上）か、CONNEXが必要。カナルサイズの「コスメアPro」と、フルシェルサイズの「ライフサウンドPro」、CICスタイルの「マイクロPro」の3器種。「マイクロPro」はK-AMPをベースにしたFDR増幅。調整装置はG40（小入力のゲイン）、G65（マスターゲイン）、G90（大入力のゲイン）、IRM（低域音質調整）の4つ。

価格は、コスメアPro・ライフサウンドProが22万円。マイクロProは24万円。



写真：ロータスS3+



写真：マイクロPro

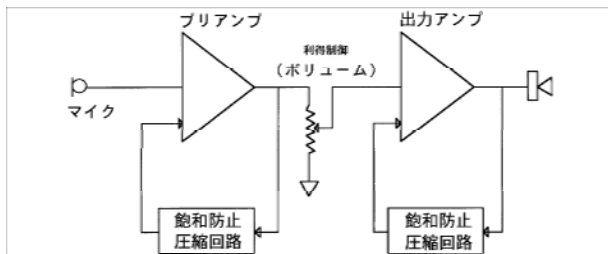
お問い合わせは、シーメンス・ヒヤリング・インスツルメンツ社、〒228 神奈川県相模原市栄町6-6 TEL:0427-65-5611 FAX:65-5601

新製品情報

C I C にシーケル回路を搭載

スターキージャパン社は、低歪みのアンプ「シーケル」を搭載させたC I C、ティンパネットの生産を開始した。「シーケル」は、入力A G Cと出力A G Cを組み合わせることで、低歪みでの増幅を可能にした独特のアンプで、音の良さには定評がある。このたび、ティンパネットシリーズにこのアンプが加わったことで、ティンパネットの選択が広がる。

なお、すでにシーケルアンプを内蔵した耳かけ形補聴器も発売されている。



図：シーケルの回路原理

お問い合わせ先：スターキージャパン社 〒224 横浜市都筑区仲町台5-2-20  
TEL:045-942-7226 FAX:045-942-7158

新刊資料

聴覚障害者の 職場定着推進マニュアル

日本障害者雇用促進協会の編集・発行の資料。「聴覚障害者の職場適応のために」などのタイトルの実際使われている社内資料を参考にして作られているだけに、実際の・具体的な32のQ&Aで構成されている。どのQも、職場での聴覚障害者への配慮について、丁寧に説明されており、実に良くできているテキストである。例えば、「Q15：FAXを活用したコミュニケーションによる効果と注意点について」など。

高等部段階で職業指導の時に、あるいは、聴覚障害の先生がおられる職場でも活用できるかも知れない。

市販されていないので、書店では入手できない。入手については、下記の日本障害者雇用促進協会にご相談を。

〒105 東京都港区海岸1-11-1  
ニューピア竹芝ノースタワー13F TEL：03-5400-1625 FAX：03-5400-1633



海外資料紹介

## 聴能学博士への道の誘導

### Navigating the road to the Au.D.

David A. Clancy

HEARING INSTRUMENTS 47(1)10-11, 1996

オーディオロジストの資格を決める水準として、Au.D. (Doctor of Audiology : 聴能学博士) 制度の導入の動きに伴い、従来からの資格制度にまつわる関係諸問題が出てきている。「現在、開業しているオーディオロジストが、聴能学博士号の取得を希望する場合、取得手段を講じる必要がある」ということでは大方の意見は一致しているものの、どのように取得できる方法を用意するかについては、意見が分かれている。

インディアナ州ウェスト・ラファイエットのAFA (Audiology Foundation of America : 米国聴能学協会) は、現在、開業しているオーディオロジストが博士としての身分を確立するための方法として、以下に示すように、いくつかの提案をしている。

- ・実績を有するオーディオロジストは、管轄母体にその専門職としてのポートフォリオを提出し、評価を受けることができる。出願者が必要な「単位数」を満たしていれば、博士の称号を使用することを許可する証明書が彼らに与えられる(=実績認定資格)。
- ・第2の選択肢は同等資格で、これは、学位の授与を行うことを公認されている大学によってポートフォリオの審査が行われ、専門職業上の経験および引き続き受けている教育に対して、大学からいくつかの単位が与えられる。学位を得るための全課程を修了するのに必要な残りの単位は、大学が提供する通信またはコンピュータによる遠隔学習によって取得することができる。必要な課程を修了すると、そのオーディオロジストに聴能学博士の学位が授与される(=同等資格)。
- ・第3の道は、学校に戻り聴能学博士の全課程を履修することである。
- ・オーディオロジストは、何もしない道を選択することもできる。この場合には、修士レベルのオーディオロジストとして仕事を続けることになる。これは、法律によって保護された権利である。オーディオロジストは、州の免許資格を満たしていなければならない。

#### 選択肢の比較検討

この4つの選択肢の中では、実績認定資格を選択するか、同等資格を選択するかが議論の中心となる。第3ないしは第4の選択肢を採るオーディオロジストについては、議論の余地はない。どの単位取得方法が良いかを判断しなければならないのは、「聴能学博士」取得に必要な単位を取ろうとするオーディオロジストである。しかしながら、この判断は単純なことではない。

AFAは実績認定資格の検討を行っているが、バージニア州アーリントンのAAA (American Academy of Audiology) とメリーランド州ロックビルのASHA (American Speech-Language-Hearing Association) はこの選択肢を薦めていない。また、サウスカロライナ州コロンビアのADA (Academy of Dispensing Audiologists : 販売オーディオロジスト協会) は、この件について賛成反対いずれの立場をも表明していない。

AFAの前理事でありニューヨーク州ニューシティのアンジェラ・レーベンプルック教育学博士は、以下のように述べている。「実績認定資格の考え方には問題があります。まず第一に、ポートフォリオを評価するための組織を作る必要があります。これは、非営利

の基準判定委員会として設立されなければなりません。そして、各オージオロジストが証明書を受けるためにどれだけの教育を受けなければならないかを、この委員会が決定することになります。その単位を修了すると、委員会は、開業者に、博士の称号を使用しその名前にAu.D.の文字を冠する資格を与える証明書を授与します。Au.D.の文字は、学位を表示するために使われるものと同じですが、その意味するところは同じではありません。これには、学問的な意味での効力は何もありません。多くの州では、実際にはそうでないのに学位をもっているかのようなことを暗示する肩書きあるいは称号を使用することは違法です」。

A F Aの議長を務める、ウェスト・ラファイエットのパーデュー大学のデービッド・ゴールドスタイン博士は、これに反論しています。「A F Aにとってこの合法性の問題は、くまず提起することが大切で、質問は次>の問題なのです。実績認定資格による聴能学博士の資格の承認は、特に法律で禁止されていない限りは合法的で、合法的であるかどうかを問うオージオロジストは、合法的ではないと教えられているのです。法律の解釈は、誰がその解釈をするかに大いに関係することなのです。もし5人の法律家に何かについて解釈を求めると、6通りの異なった解釈が返ってくるでしょう。計画に反対する人は、それを支持する人とは違った解釈をするものです」。

だが、A A Aの会長キャロル・フレクサー博士は、以下のように警告している。「大学あるいは州の認可委員会（licensure board）によって授与されたものではない資格認定書には何の効力もありません。認可委員会または大学以外の組織が発行する資格認定書には、何ら法的な、あるいは学問的な価値もありません。たとえ専門家としてふさわしい人であっても、その称号には何の価値もありません。このような事情から、Au.D.の教育課程が正式に認められている大学からの学位の取得が最良の選択肢だと考えています。私たちは、オージオロジストに、法的効力をもたない資格の取得を薦めるのは無責任なことであると思っています。公認の大学から授与された学位を持つ者のみがその称号を使用できます。認可委員会および大学によって授与された資格認定書にこそ価値があるのです。過去にも、専門職業に対する資格は他にもありましたが、これらの資格は大学や州の認可委員会によって授与されたものだったからこそ価値があったのです。私は、A F Aの理事でもありましたが、実績認定資格の提案には反対の投票をしました。もし、ポートフォリオの証明を受けるつもりでいるのなら、不法な証明書ではない、別の学位が得られる道を選ぶべきです。A F A理事会は、私たちが反対票を投じたことで、州法についての調査を行うことを迫られました」。

また、レーベンブルックは以下のようにも話している。「私たちは短期間にこのようなAu.D.に関する作業を進めてきたのです。私たちは、今、新しい学位の完全性を守らなければならない危機的状況に直面しています。私は、もし証明書が発行されるようになれば、Au.D.が必ず問題になると思っています。ニューヨーク州では、この証明書は違法です。A F Aは私たちに対して、条件の変更について認可委員会に提案するよう求めています。ここで要求されているような努力をすれば、確かに学位の取得は容易になるでしょう」。

A S H Aは、同じ様に、現在提案されている同等資格の基準によって授与されるAu.D.の学位は、この専門職業に要求される基準が高くないという事実を知らしめることになり、一般大衆のAu.D.に対する信頼を低下させる結果になるだろうと考えている。A S H Aの報告書では、現在提案されているこの同等資格の選択肢を「聴能学という専門職業に対する侮辱」と呼んでいる。

しかし、A F Aのゴールドスタインが言うように、Au.D.プログラムは、現に活動している開業オージオロジストのために計画されたものではなく、その入口レベルのオージオロジストのために計画されたものなのである。

ゴールドスタインは、「私たちは、既存の開業オージオロジストが不適格だとは言って

いません。むしろ、逆なのです。私たちが変えようとしているのは訓練養成課程であって、オージオリジストその者ではないのです。もしオージオリジストが<資格を身につけるために>学校に戻らなければならないとするなら、彼らのそれまでの資格水準とは一体何だったのでしょうか？。開業オージオリジストがその身分を変えない道を選択するというには、一体どういう意味があるのでしょうか？。博士の水準にありながらAu.D.の称号取得の道を選択しないオージオリジストについては、どう考えたらいいのでしょうか？。一般の目には、彼らは信頼できないと映るのでしょうか？。オージオリジストたちは学校教育を修了した時点で学ぶことをやめるようなことはしません。彼らは、開業してからずっと学び続けてきたし、また、<資格認定書の更新>を受けようかと判断するか否かに関わらず、これからも学び続けるでしょう。我々は、このことを認識しなければならないのです。私たちは、オージオリジストに対する評価は、教育レベルによって決まるのではなく、そのサービスの質によって決まるのであると信じています。幸せな患者は友が1人であっても幸せです。が、不幸な患者は、10人の友がいても不幸なのです」。

#### 混乱の解決

ADAはこの議論に登場していない。ADAは、この混乱が解決されるまでこの問題に関わることを控えることにしている。ADA会長である、カンザス州のケン・スミス博士は、「実績認定資格および同等資格の両者のあらゆる面を調査しようというAFAの努力を支持し続けるという私たちの立場は、ADAの理事会が全員一致で決定したものです。AFAはまだ行動に移すまでの計画をもっていません。それができるまで、何が良くて何が悪いといったことを言うのは、まだまだ時期尚早です。ADAは、開業オージオリジストの利益になるような立場をとることを表明しています。これは、今でも私たちの第一の目標であり、また、計画ができるまでは、どの選択肢であれ放棄することは時期尚早です」と話している。

具体的な計画の如何に関わらず（あるいはそれがなくとも）、Au.D.プログラムに向けての動きはこの国の諸機関での趨勢となりつつある。ボール州立大学でのAu.D.プログラムの開始によって、Au.D.プログラムを始めた大学は合計3大学（他の2つは、ヒューストンのベイラー医科大学と、マウント・プレザントのセントラル・ミシガン大学）となった。

## 学会誌・研究会誌 Contents

特集<人工内耳装用児とコミュニケーション>音声言語医学 1996 Vol. 37, No. 3

小児人工内耳のリハ・プログラム 倉内紀子

STの立場からみた小児人工内耳 城間将江

医師の立場からみた小児人工内耳 高橋晴雄・内藤 泰・本庄 巖

人工内耳が活かされるための教育環境 大沼直紀

人工内耳装着学童への援助 川野通夫・本庄 巖・内藤 泰・高橋晴雄

塩見洋作・山口 忍・大久保有理・桑原 桂

「人工内耳装用幼児のハビリテーション」加藤昭子 聴覚障害 1996 Vol. 51(7) 26-31

新番組開始

## ハローウィンドウ・みみ [#210]

(株)日本文字放送(NHK文字放送)は、阪神大震災以来、文字放送の役割がクローズアップされているため、耳の不自由な人達を対象にした新番組「ハローウィンドウ・みみ」を制作、4月からスタートさせている。当面は、関東・甲信越ローカルで放送。番組番号は「210」。

耳の不自由な人は、ろう者、難聴者、中途失聴者をあわせて全国で600万人に上ると推定されている。阪神大震災では日本文字放送が特別番組を編成、災害関連情報から復旧状況や生活情報、それに亡くなった方たちの名簿情報などキメ細かい放送を行い、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会などから「耳の不自由な人たちにとって文字放送の情報ほど役に立った情報はなかった」と高い評価を受けた。

こうした社会的な状況を踏まえ、日本文字放送では、当初は聴力障害者情報文化センター提供のデータを基本に全難聴、全日本ろうあ連盟、東京都聴覚障害者連盟などの各種団体の機関誌を中心に番組を編成する方針で、聴力障害者とその家族、関係者などを対象に“見ないと損する耳よりの情報”“分かっているようで分かっていない情報のワンポイント解説”“イベントのレポート”“体験談”など単なる「催しもの・イベントの事前お知らせ」にとどまらない構成を用意しているという。

内容は、表紙を入れ原則8ページでスタート、2週間に1回の更新で[イベント・セミナー・講習会情報][障害者団体情報][ボランティア情報][福祉機器情報][聴力障害者行政]などを盛り込んでいく方針で、日頃、情報量の少ない障害者にとっては大きな福音となりそうだ。

詳しくは、(株)日本文字放送(テレモ日本)

〒150 東京都渋谷区宇田川町7-13 第2共同ビル TEL:03-5489-3800

・・・ ひとこと ・・・

おもしろい話しを聞く羽目に会った。

ある親の会からの招聘で、私が講演をした。内容は私がどこでも話すような、ありふれた、ごく普通の話しだ。その後、数ヶ月してから後、同じ市中にある聾学校の先生が「情報は、親が知る前に教師である我々が知る必要がある」と私に話しに來られた。これだけでもおかしな話し。私の講演会の開催にあたって、事前に案内を出し、誰の参加も拒まずに開催していただけたにもかかわらず、私はずだ。私は、情報は、求める人が、すべてを、自由、迅速に、手に入れる権利があると考えている。さらに「私の話は過激だ」という。話しの内容容について、それが適切かどうかは聞く人が判断し、選択するべきことであって、聾学校教員のフイルターで通した「大本営発表」の話ししか聞くことができないという環境があるとすれば、こんな不幸な環境に置かれた親はまさにかわいそうだ。

先日、その聾学校で開催するという研究会に一般参加をお願いした。翌日、丁寧なお断り状をいただいた。しかし、聾学校が何を考え、何をしたいのかを参観したいと、再度、参加のお願いをしてはみたが、結局断られた。

自分たちのメンツの大切さの余りに、壁を築くことに夢中になり、他を排斥し、情報統制・情報管制をするという鎖国魂が、ペリー来日後百数十年たっても、まだ日本人に宿っているとするとするなら

講習会案内

**JAVTOC 基礎講習会**  
(ヴェルボ・トナル・システム)

下記の日程で、ヴェルボ・トナル（JAVTOC方式）の入門講習会を開催いたします。  
基礎理論を中心に、具体的実践例を交えてご紹介いたします。

日時： 1996年11月22日（金）午前10：00～午後4：00

場所： 慈恵医大第三病院内講堂（東京都狛江市）

定員： 50名（定員に達し次第締め切らせていただきます）

会費： JAVTOC会員 5,000円、一般 8,000円

申込方法： 下記の申し込み用紙に必要事項を記入の上、

「宛名を明記し切手を貼った返信用封筒」と共に、事務局まで郵送して下さい。

事務局： 〒201 東京都狛江市和泉本町4-11-1

慈恵医大第三病院 リハビリ科ST室内 JAVTOC事務局

TEL：03-3480-1151（内線3349または3348）

-----  
JAVTOC基礎講習会（1996年11月22日）に申し込みます。

氏名： \_\_\_\_\_（1：JAVTOC会員、 2：一般）

所属： \_\_\_\_\_

連絡先（1：勤務先、2：自宅）※1、2のどちらかに○を付けて下さい

住所： 〒 \_\_\_\_\_

電話： \_\_\_\_\_

INTERNET



がホームページを公表中

日本中どこからでもInternetを通じてアクセスできる。

内容はOticonの会社概要、Human Linkの思想、製品紹介、新聞発表記事など。

DigiFocusなどの新製品についても、最新の開発状況が紹介されている。

見たい場合は、www.oticon.com にアクセス。各メニューを選択する。



福祉法

## 基準外交付の判断が県レベルに

以前より、FM補聴器などの告示に示された補聴器以外の交付を受けられる制度が活用されている。「基準外交付」と呼ばれる制度だが、交付に際しては厚生大臣との協議が必要であったため、交付までに時間がかかること、手続きの煩雑さのために使わない方も多かった。今回、生活の状況によって、都道府県レベルで交付ができるような通達があり、交付決定までの時間短縮が望めるようになった。

児 発 第 1 0 7 8 号  
平成7年12月26日

都道府県知事  
各 指定都市市長 殿

厚生省児童家庭局長

### 補装具の種目、受託報酬の額等に関する基準の一部改正について

児童福祉法第21条の7の規定に基づく補装具の種目、受託報酬の額等に関する基準（昭和48年6月厚生省告示187号）の一部が、平成7年12月26日厚生省告示第220号をもって改正され、平成7年4月1日から適用されることとなったが、その内容は、別添の通りであるので了知のうえ、遺憾のないよう取り扱われたく通知する。

#### 記

##### 1 改正の要点

- (1)受託報酬の額について、最近の人件費の上昇及び一般市価の動向に対処し、価格を改定したこと。
- (2)(3)は車いすにモジュラー方式による製品を加えたことに関する内容)

##### 2 運用上の留意事項（省略）

##### 3 基準外交付の取扱い

基準外交付については、「補装具給付実施要領」の第3の2により、厚生大臣に協議のうえ、その承認を得て交付することができるものとしているが、次の各要件を満たすものについては、厚生大臣の承認があったものとして交付して差し支えないこと。

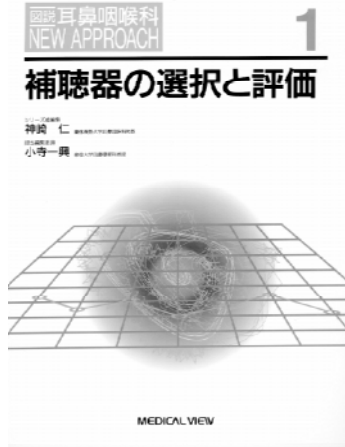
なお、この場合の交付額については、見積もり等により適正な価格で決定して差し支えないこと。

- (1)部品の交換、取付であって、その必要性について医学的判定を要しないと思われるもの。
- (2)一般的には必要ないが、当該身体障害児童の障害の状況、生活状況や地域の地理的特性から、特に必要と思われるもの。

新刊図書

図説：耳鼻咽喉科 補聴器の選択と評価

表題の通り、主に耳鼻科医を対象に書かれた補聴器全般の解説書。最近の新しい補聴器について、ページを割いているのが特徴。神崎仁シリーズ総編集、小寺一興編集。メジカルビュー社刊、9270円。



- I. はじめに
  - 補聴器適用における耳鼻科医の役割
- II. 補聴器の適応と適用
- III. 補聴器フィッティングの技術
- IV. 補聴器フィッティングの諸方法と評価
- V. 新しい補聴器
  - Kアンプの効果と適用／マルチフォーカスの効果と適用／ED2の効果と適用／デジタル補聴器（ラウドネス補償型）の効果と適用／デジタル補聴器（多信号処理型）の効果と適用／デジタル補聴器（HD-10）の効果と適用／デジタル補聴器（ソニー方式）の効果と適用／耳かけ形FM補聴器の効果と適用
- VI. 特殊な補聴システムと適用

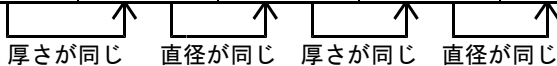
電池

松下電池工業が、5 A 電池を生産開始

CIC用の電池として欧米では既に利用されている5A電池が日本でも生産・市販が開始された。これで、日本で販売されている補聴器用空気電池は5種になった。なお、国際的には「5A」と呼ばれるこの電池、日本では「PR521」という呼称で呼ばれる。日本も早く国際呼称に一本化を！と望みたい。

そこで、今回、補聴器用電池の呼称とサイズを確認。

国際呼称	675	13	312	10	5
国内呼称	PR44	PR48	PR41	RP536	PR521
直径(mm)	11.6	7.9	7.9	5.8	5.8
厚さ(mm)	5.4	5.4	3.6	3.6	2.15



## 特集

# パレスチナ・イスラエル旅行記

5月30日(金)

初めてコーランの響きに目を覚ますことなく9時過ぎまで寝る。

起きて間もなく、本間さんが来る。しばらく雑談後、本間さん持参のラーメンを頂戴する。久々のラーメンの味に驚く。「こんな味だったのか」と。本間さんと外出。金曜日は宗教的な休日でもあり、ほとんどの店が店を閉めるので、娯楽の少ない子どもたちにとって、我々日本人は格好の娯楽対象なのかも知れない。からかわれるが適当にあしらう。UNDPのオフィスで道路向かいのモスクでの集まりを見る。時間が近づくと次々と近所の住民が(男のみ)が集まり、まずは説法から始まり、祈りの言葉まで約1時間半を見る。イスラム教の祈りを見るのは初めてだが、歩道にまでござを敷き、モスクに入りきれない人々がすわり、聖地に向かって祈りを捧げる姿は圧巻・感動である。

少々時間をもてあそぶことになったので、異国でのうどん作りに挑戦。小麦粉・塩・水で作ってみる。1時間ほど練ったり踏んだりを続け、できあがって食べてみると、結構食べられる物ができあがる。サヨリを2枚におろし、インゲン・茄子・タマネギ・ピーマンの天ぷらと小鯛の塩焼きを食べながら、本間さんと日本酒を飲み交わす。異国での日本食は実に感慨深く、何を作ってもウマク思えるのだ。揃わない調味料や限られた素材で何を作るかなどを考えるのは実に楽しく、今回、後半はすっかり、このおもしろさにはまってしまった。飲みながら、本間さんと日本の国際協力のあり方、援助のあり方など楽しく論議。本間さんが、天ぷらうどん用に残しておいた天ぷらもすべて食べてしまったので、肉うどんにメニューを変更。タマネギと牛肉を炒め、砂糖・塩・醤油・酒・だしの素で味付けして具を作る。

このころ、イスラエルの総選挙の最終結果に近い結果がわかり、ラビン首相の敗北がわずかな差で決まりつつあることを知る。ガザにとっては、和平交渉の進展にプレーキがかかることが心配であるし、近差故にイスラエル国内の旧住民側の和平願望と、新住民の入植地確保の訴えを共存させる政権維持が難しくなるだろうとの論評を聞く。イスラエル側の是が非でもパレスチナ人から土地を奪取しようという気持ちは、ユダヤ人の過去の歴史を考えればわからぬではないが、こうした民族主義の台頭は結局はお互いのつぶしあいの悲劇しか生まないこと、私なんかは歴史の不勉強なのかもしれないが、「誰がどこで、どんな風に生活しようといいじゃないの、ハッハハハハ」と思ってしまう。今、そこを使っていた人がいて、その土地を他の人が使いたいならば、根気よく交渉し、使用権を買うなり借りるなりなどと考えてしまうが、どうして、武力でそれを踏み倒そうとするのか、私には理解できない。数千年前は我々の土地などと言う論理で戦争が起き、あるいは本当は心の平和を呼ぶための宗教がからみ、聖地奪還のためならば武力を用いるという論理、戦場での惨状を聞くと、本当にそう思うのである。

南さんがデフ・クラブから帰宅。デフ・クラブでの勉強会を援助しているアメリカ人(アトファルナに手話ボランティアで来ている女性)がイスラエルの歴史に関する話の際に、キリスト教徒の一方的なイスラエル解釈を教え、その後のデフの人たちだけの集まりで、パレスチナ人デフが意義を唱えたと聞いた。宗教と歴史を混同してはならない。今回、「宗教とは何だろうか」と考えてしまう機会が多かった。お節介にもアラブ社会にキリスト教を布教し、間違った一方的な歴史観を注入するのが宗教なのだろうか。私は今日、荘厳なイスラムの儀式を拝見したが、アラブの社会はアラブの社会として、自分たちの価

値観と倫理観＝文化で動いている。そうした価値観や倫理観を私たちは最大限に尊重しなくてはならないし、我が宗教が優れているとか、我が文化が優れているという視点を持つてはならない。相手の文化を尊び、相手の文化や習慣の中で、どう私たちが共存していく道を探れるかを考えなくてはならない。一方的な援助ではなく、日本が優れているのではなく、今回、私はスタッフ一同と、本当に心の通う交流ができたから、そしてその交流を通じて、私が持っているわずかな何かを彼らと共有する事ができたし、彼らが持っている文化・生き方・生き様を共有できた。今回の体験は私にとって、アラブ社会への招待とも思えた。ガザの街を歩いていると、最初は「あ！、日本人だ！」という目で見られてイヤな気分にもなるが、今日くらいになると、こっちは忘れていても、目立つ私のことは覚えてくれていて、「サラーム・アライコム」と声をかけてくれるので、私も「アライコム・サラーム」と答えたり、見知らぬ人に道を聞くと、本当にとことん教えてくれたりと、人と付き合いやすい街であることに気付くのである。私はたった2週間の滞在でしかなかったが、この社会の寛容さを知ることができた。本当に良かった。

31日(土)

ガザ、最後の日。荷物を作り、10時にタクシーでボーダー(国境)に向かう。羊を乗せたロバ。「しょうがないなあ」という顔の荷馬。店前のいすにゆったりと腰掛けるハッジ……。もう、この地に来ることはできないだろうと思い、車窓からの風景を険に焼き付ける。

簡単なパスポートチェックを終え、質問をされる。まず「どこに行くのか？」私はパレスチナ国にいたつもりだったので、つつい「イスラエル」と答えてしまい、失笑を買う。「ここはイスラエル、イスラエルのどこに行くのか？」と再度聞かれ、ホテルの名前が書いてあるカードを見せる。どこの国に行っても、入出国管理員の態度が横柄なのはなぜだろう。これは以前、成田の出国手続きのこと、窓口「どの国に行くのですか」、私「ソウル」、窓口「ソウルという国はありません」、私「韓国です」といった具合。いったい、この窓口の方は「ソウルがブラジルにでもあるとお思いなのだろうか？」。

その後、荷物検査。スーツケースのビデオカメラのケースの中まで調べられる。荷物検査もだいたい横柄で、この台の上に乗せろだの、これは何かなどほぼ命令調。どうせ日本語などわかるはずないだろうから、「てめえが見てえつーから見せてやってんだろ」などとつぶやきながら開ける。「OK」が聞けるまで約20分。機関銃には逆らえない。

無事に越境し、イスラエルに入国？。予約してあるタクシーで一路キング・ソロモンホテルに向かう。チェックイン後、昼食と観光のために外出。

エルサレム旧市街ほど、観光客を拒絶する観光地はない。通路表示がなく、案内板がなく、自分が今どこにいて、各交差点でどこをどのように行くとどこに行けるかの案内が通路にないのだ！。結局、どの観光ポイントにもたどり着けず、アラブ人地区を2周、ユダヤ地区を1周歩く。かなり疲れた。これでは一般の観光客はとうていどり着けるはずがない。街を歩いていたら、十字架を背負った一団に遭遇する。キリストが十字架を背負って歩いた道をそのまま歩くツアーだそうで、聖書片手に何か歌いながら行進するので、その後に付いて歩く。とにかく街の道が複雑にできており、さらに標識がないから、そうした団体に付いて歩かないと一巡してしまうのだ。しかし、至る所で止まり(おそらく、キリストがここで何をしたの、こうのという説明をしているのであろうが)、歌い出す始末で、結局、一人で歩き出す。ウロウロしていると唯一通りすがった日本人が「ここです」と指さしてくれた。旧市街に入って初めての日本人だ。幅90cm、高さ180cmの木戸を抜けたところにキリスト教の聖地、聖墳墓教会があった。キリストの墓や十字架がかけられたという地点を見る。エルサレムの観光は旧市街が最大と聞いていたが、それほど

ではない。私にとっては、キリストがどこで何をしたかは関係なく、むしろ、歴史的な建造物や旧ローマ時代の遺跡を見たかったのだが、そうしたスポットのいくつかには結局たどり着けなかった。やはりガザの方がよい。私の価値観の問題か。

6月1日(日)

ホテルで朝食。例から例のカリカリベーコンとスクランブルエッグのおきまり定食。

ホテル前からバスに乗ろうとするが、ガイドブックに載っていた1番バスに乗り、運転手に「糞門に行くか」と尋ねると反対側のバスだという。反対側のバス停で待てどバスは来ず(バスの停留所にバスの時刻表や路線図がないのには驚く、一体、何を信じてバスを待てばよいのかがわからない、どうもイスラエルは観光客にバスを利用させまいと考えているらしい?)、結局、タクシーをつかまえる。アラブ人らしい運転手だったので、いきなり「サラーム・アライコム」と声をかけると、糞門まで最短距離を通ってくれ、約20分ほど雑談をしながら着く。20シェケル。別れ際にも「サラームアライコム」で固い握手をして別れる。ユダヤ教の聖地、嘆きの壁で紙の帽子をかぶり、壁にさわる。ユダヤ教徒の熱心な祈りが続く。今日は休みでもないのに、たくさんの教徒が来ている。その後、イスラム教の聖地ビッグモスクに行く。黄金のモスクは大きくさすがにきれいで、何枚もの写真を撮る。糞門から旧市街の外に出て、遺跡の発掘場所を2カ所見学、さすがにローマ時代の遺構を見て、ここの良さがわかった感じ。シオン門に向かうべき道を歩きながらタクシーを探す。「シオン門10シェケル」で交渉をして車に乗ると、いきなり日本語で「こんにちわ」と声をかけられたので、腰が抜けるほど驚く。シオン門で降り、キリストの最後の晩餐の部屋、ダビデ王の部屋、ホロコースト記念館など見る。シオン門より旧市街に入り、アルメニア人地区のレストランに入って昼食。アルメニア料理はイタリアの味付けに近く、至って美味。塔に登り、旧市街を一望する。さすがの風景に感激。

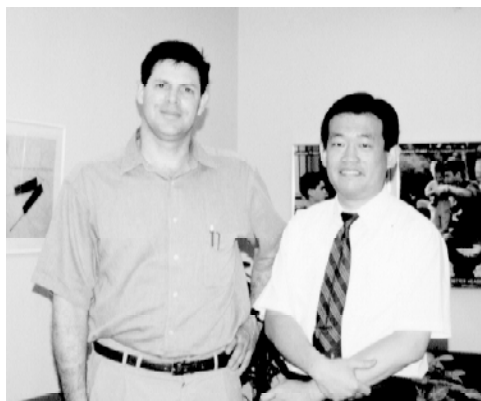
ヤッホ門からタクシーをつかまえ、中央バスセンターに向かう。バスセンターからハイファ行きのバス行程の約2時間、機関銃を持った兵士の後ろの席に座る。

ハイファのバスセンターでタクシーに乗り換え、ホテルに。ノフ・ホテルは港が一望できる好地にあり、本当に満足。風呂休憩後、ガイドブックに「1階に美味しい中華レストランがある」と書いてあったので、一階の中華レストランに向かう。しかし、すっかりイスラエルナイズされていて、本当に寂しい。英語とヘブライ語のメニューでは何もわからないので、結局、材料と料理方法を南京出身の店員に漢字で書き示し注文をする。思ったものが食べれて本当に満足。メニューがわからないと言うことで、いい加減な物を注文し、失敗することより、時間をかけて説明すれば、料理人が何をこちらが要求しているかを理解してくれると言う物だと考えた。隣人が箸で食べる私を見て、「チャイニーズ？」と聞いてくる。日本人だと答えると、「アーハー」と納得している。中華料理をナイフでバラバラに切って、フォークで食べる姿には、ちょっと驚く。

2日(月)

9:30、AVR社のダー社長が迎えに来てくれる。AVR社見学。

午後、ナザレに観光に行く。キリストの母が受胎宣言を受けた地、青年キリス



AVR社長ダー氏とAVR社内にて撮影

トが生活をしてきた家の跡など見る。キリスト教にとっては大きな聖地であり、大きな教会とすばらしいドームを見ることができる。ナザレより、テルアビブに向かう。車中、ひたすら寝る。

カールトンホテルに入る。ビーチサードの超高級ホテル。まったくこんな機会でもなければ、こんな高級ホテルには泊まらない。海が見えるテラスでワープロをたたく。唯一、ミニバーの冷蔵庫がこわれていて、中の物が冷えていないとクレームを付ける。テルアビブで有名だという中華料理店「Red Chinese」に行く。タイ料理と中華料理がメインなので、チンジャオロースーとエビチリソース（タイ風）、フライドライスを食べる。紹興酒はないが、青島ビールがあり、2本あける。日本料理屋にでも冷やかしに行くかと決意、タクシーで「izakaya」まで行く。イカのバター炒め、ネギ間を注文し、日本酒を飲む。イカのバター炒めには興ざめ。せめて、普通に焼いて醤油としょうがで食べたいものだ。カウンターに初老の日本人が来たので、話しかけると某会社の方で、一緒にイスラエル事情など話しながら飲む。エビのバター炒めというメニューがあるが、おそらく推して知るべしなので、調理場に入り、店長にむきエビか殻付きかを尋ね、殻付きの生を使っているというので、それをそのまま塩焼きにするようお願いする。やはり、塩焼きの方がうまいと思いながら、さらに飲む。結局、12時近くまで飲む。帰りに商社の方の宿舎への帰路に私の泊まっているホテルがあるというので、一緒に帰る。異国でこういう人とって話しをするのは結構おもしろい。

3日（火）

10:20、フロントより電話があり、下に降りる。フロントにはすでにアメリカのオーディオロジストである Wendy Davis が待っていてくれる。Wendy は2月に日本に来ており、久々の再会の挨拶をする。

最初に、M I C H A に行く。結局なんで M I C H A という名前なのかは十分にわからなかったが、おそらくヘブライ語の「聞く」とかいうような意味らしいということは何となくわかる。ここは0~10歳の子どものインテグレーション教育を援助する私立の団体で、支援団体のドネーション（寄付）で経営されている。子どもは通常は普通の幼稚園や学校に行き、必要に応じて週に2回程度こちらに来ることになっているという。この日は遅く、行事日で通常の保育形態を見ることができなかった。全体で影絵のようなものを見る場面を見ることができたが、補聴状態はよくなく、フィッティングの問題が大きいように思える。子どもの発音や、教師のFM補聴器の使い方も今一で、がっかりする。見に来た以上はいいものを見たい。専属のオーディオロジストにも会うが、ちょうど外来で新患が来ていて、評価方法などを質問したかったが、できなかった。しかし部屋の雰囲気からして、動いていないなあという感じを受ける。Extend-Earや人工内耳を使っている子どもも多いが、例えば、校長が集団に話しかけるときの、何の補聴援助システムも使っていないし、話しかけ方も上手とは言えない。子どもが騒いでいるときに、「ハイ、みんな、静かにして！」と言っても静かになるはずがない。簡単な手遊びですれば、スッと静かになるのになあ・・・等々、見るべきものはない。子どもの声を聞くと、その補聴状態がわかるが、いわゆるデフボイス系の声が多く、息のコントロールも下手な子どもが多い。イスラエルでは昨年、国際会議をしたぐらいだから、もう少しまともだろうと想像していたが、あまりの悲惨さに驚いた。まだ日本の聾学校の方がマシだと思う。

昼食時、WendyとFMの使い方やフィッティングの状態が良くないなどの意見を交わす。Wendyも同じ感想を持ったようで、まったくの同意。昼食はイスラエル料理店に行く。シカカブやクーベ（味付けして炒めた肉を小麦粉でフライにしたもの）、フームスなど食

べる。午後、参観するSHEMAの近くのレストランだったので、SHEMAの中学生ぐらいの難聴児が店に来て、ファラフェを注文している。書いたり、指で指したりして、希望の味付けのピタ（袋状になったパン）を買っていた。ピタに、ファラフェ（ホームスという名前の豆を揚げた物：結構おいしい）やサラダ、肉、その他の素材を、はさみこんで食べる物で、「どれをどのくらい入れて」という注文をせねばならず、私などはお手上げだが、おそらく難聴児にとっても、それなりの苦勞を必要とする買い物であろうと思う。

MICHAが0歳からなのに対し、就学以降は義務教育として国立の機関がインテグレーション教育をサポートすることになり、この機関をSHEMAと呼んでいる。あいにく、この日は子どもが水泳教室の日でいないと聞いて、ちょっとムツとする。それなら、最初から「この日は子どもがいない」と参観を断ってくれたらよいのに！と思う。オージオロジストが補聴器のレンタルシステムなど話してくれるが、早口で、その上、私の方も子どもがいないことでカチンと来ていたので、聞く気持ちがわからない。ま、いいかと適当な受け答えをする。しかし、子どもの補聴器の最終的な機種決定までの間、とりあえず、補聴器を借りる制度があることは、補聴器選択の幅を広げることにもなり、結構なことだ。日本でも何らかのレンタルシステムがあってもいいかと思う。ホテルに戻る。

部屋で一休みした後、夕食に出かける。テルアビブの街の地図はだいたい頭に入っていたので、ガイドブックは持たずに外へ出る。ディンゲンゴフ通りは、以前、バス爆発があった通りだが、テロリストがねらうほどの繁華街で、その繁華街のハイファ寄りの通り端にある中華料理店「北京楼」に行く。当地では春巻きを egg roll と称して売っており、これに甘い蜜をかけて食べるのが流行っているらしい。どの客も春巻きを食べているが、そう、安心して食べられるメニューであることには間違いないものの、春巻きに蜂蜜という取り合わせは私の口にはあわない。ワントンスープと、エビ団子揚げ、エビの生姜炒めを注文する。ここでも一応紹興酒を注文してみるが、やはり置いていない。いろいろな料理の味付けにお酒は何を使っているだろうかと疑問がわく。やむえず、また青島ビール。せっかく地図を覚えたことだし、最後のイスラエルの夜だしというので、寄り道をしながらのんびりと歩いて帰る。

#### 4日（水）

4時起き、がらがらの高速道路をとばし、70シェケルで空港に。

おそれていた出国チェックが始まる。仕事は何をしているのか、名刺を見せろ、2週間何をしていたのか、どこに泊まっていたのか、夜は何をして過ごしたのか、ガザのセンターで感じたことは何か、ガザで知り合ったスタッフの名前を言え、パレスチナ人にパーティに招待されたか、何かプレゼントを受け取ったか、エルサレムは一人で行ったのか、エルサレムのガイドは誰に頼んだかなどを一通り聞かれ、終わったかと思ったら、担当官が変わり、また質問責め。最後にスーツケースを開けて、パレスチナの人に頂戴したプレゼントを開け、仕事の証明に補聴器を見せる。およそ20分の質問攻撃を受けたが、無事にパス。しかし、離陸後、隣席のユダヤ教徒が、いきなり刃渡り10センチほどのナイフを取り出し、ひもを切っていたのは驚いた。機内持ち込みのセキュリティが甘過ぎではないだろうかと思う。

（終わり）

今回、私の訪問は下記のNGOから委託されたものでした。NGOを応援して下さい！。

「パレスチナ子供のキャンペーン」〒169 新宿区百人町2-22-15 山権ビル3F

TEL：03-3360-9406、FAX：03-3360-9439

## フィッティング・フォーラム'96予告

今年は研究会の事務局続きでバテギミです。「もう今年はやめるべ」と思っていたら、結局、尻をたたかれてしまいました。今年の、テーマは「certification（資格）」です。言語療法士・医療言語療法士・認定補聴器士などなど、補聴器に関する業務を含む資格化が進んでいます。専門性を高めるためと、もう1つ、学校においては、教員の移動に対抗する意味合いも含まれるかも知れません。つまり、せっかく何年もかけて、補聴器を学んだにもかかわらず、10年目の肩たたきで移動させられると言うようなことを、資格化することで、少しでも防げるのではないかとも思うのです。

資格化の是非、資格化するにはどうしたらよいのか、名称は、認定の方法は・・・などについて、論議したいと思っております。

日時：1996年10月19日（土）

会場：水戸市内か、つくば地区

テーマ：「certification（資格）」を考える

パネリストを募集します。自薦・他薦なんでも構いません。ぜひ、お知らせ下さい！。9月に全国の聾学校に、詳しい参加申込書をFAXで送信します。

※また、今年は宿舍の手配は致しません。御参加各自でお願い申し上げます。

### 「みみだより」バックナンバー集発刊についての御意見を伺いたく思っています

「みみだより」も300号を超え、307号になっています。何人かの先生方から、「今度はバックナンバー集を出さないの？」と聞かれています。200号を迎えたときは、1～200号と100～200号のバックナンバー集それぞれ200冊を印刷しました。創刊の頃の記事は今ではもう余り役立ちませんから、200～308号を含む、「バックナンバー集」を印刷してみようかと思っています。しかし、どのくらいの部数を印刷したらよいものかわかりませんので、取りあえず、「予約」を受けます。同封の返信用ハガキで購入希望部数をお知らせ下さい。価格は印刷部数によって大きく異なりますが、2000円前後を考えています。

もちろん辞書代わりに使える「索引」付きです。予約締切→9月30日